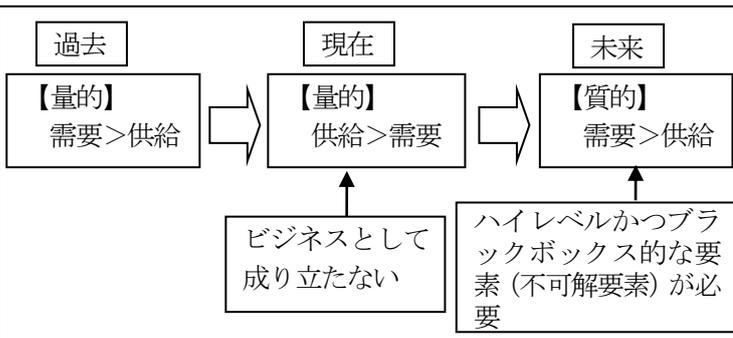


～ タイムリーな情報を、いち早く皆様にお知らせします ～

◆価値観が変わった時代的背景

◎需要>供給 ⇒ 供給>需要

これまでは「需要>供給」という、需要（買う側）は多くて供給（売る側）が少ないということが大前提でビジネスが作られてきましたが、今は逆転して「供給>需要」になり、本来のビジネスとしては成り立たない状態にあります。しかし、これまでの「供給>需要」でしか成り立たなかった事業の在り方を変革していかなければいけません。全てにおいて「機能の見直し」が出てきており、「量」からではなく「質」から見た「需要>供給」のビジネスを考えていく必要があります。例えば、液晶パネルや太陽光パネルなど「量」でも成り立つ場合がありますが、瞬間的です。「質」においてはハイレベルなものが必要であり、ブラックボックス的な要素が必要です。モノだけでなく営業においても質・業務の革新が問われます。



◎旧社会概念の崩壊と脱業界時代

今までの社会概念が変化してきました。我々が過去に身に付けたこと、過去の話しなどはどうでもよいという時代になりつつあります。旧社会概念を横において、ものを考えなければならぬ時代に入ってきました。また、業界にこだわりすぎています。業界の概念を外し、違う切り口からの話しができるようになる必要があります。

◎科学技術の進歩とスピード化

「十年一昔」から、「三年一昔」という変化のスピードです。今まで10年かけてやろうとしたことも今は3年という短期間でできなければ現代で生きていくのは困難です。

◎余裕のなさ多数のなかの孤独

時間的・精神的には余裕がないわけではないが、現実には誰も余裕がなく、せつつかれている雰囲気が強いようです。今までの在り方ではいけないということを考えながらも、人間は絶対に余裕がなければならぬのです。また、雑踏の中にも孤独というのが現代の特徴の一つですが、孤独でない社会をどのように創るかが重要です。

◆21世紀は葛藤の世紀

将来の夢に向けて、自分が今やれること、やらなければいけないことを考え、実現していくことが基本的な生きるスタンスです。近欲ではなく遠欲でやらなければなりません。細かいポイントで捉えるのではなく全体を捉え、大きな流れの中でやらなければならないことを考える必要があります。

時代の変化は30～40年前まではゆるやかな変化でしたが、現代の変化は無節操に変わっています。しかし、その変化は過去から見たら無節操ですが、未来から見ると構造が変わっているだけです。

◆仕事の技術

BSOには「仕事辞典」があります。語学の文法みたいなものです。一度はきちんと勉強しないと、きちんとした生活は出来ません。仕事でも同じで、仕事辞典などで勉強していないと、産業生活が上手く行きません。基本を知ってやらないのは救われますが、基本を知らなくて出来ないのは命をなくすことにさえなりかねません。

⇒ ◎基本を知ったうえで、出来る方法を考える

現代は、通常では困難な事ばかりです。ましてや安直に出来ることは殆どありません。かといって、やらなくても生きる面白さがあるというのははずみです。出来る方法を考えていないから出来ないのです。プロセスに分解し、各プロセスの方法手段を色々な角度から発想させることで出来るようになります。ただし、必ずやり遂げると云う強い意志がないと発想が貧弱になり、出来る方法が編み出せません。

◆新しいビジネスの革新機会増大

仕事のための仕事が増え、求めている人の期待に応えるのではなく、「この仕事はこうするのが正しい」という姿勢で仕事をしている人が増えているようです。無駄なことばかりでピントがずれていても、違和感もなければ不思議でもない、これで世の中が回っています。人間が増えることで、このような状態になるのでしょうか、営利企業では、このような無駄は迷惑千万です。このような状態を改革する役割が我々にはますます増えているようです。(西山)

詳しい記事やその他の情報は、BSOのホームページ <http://www.bso.co.jp> へ

情報てんこもりは、弊社の協働活動（受託事業・企画事業・出版事業）のタイムリーな情報をいち早く多くの方々にご提供いただく為に発信しております。（お問い合わせは shienkikaku@bso.co.jp まで）